

クオリティペーパーのニュースバリュー ——欧州 6 紙のテロ関連報道の分析から

鄭 玫 秀(上智大学大学院 院生)

【キーワード】 質の高い新聞、クオリティペーパー、ロンドン同時多発テロ、ニュースバリュー

【研究の目的】 新聞を取巻くメディア環境が大きく変化している現代社会において、クオリティペーパー(高級紙、質の高い新聞)は、どのような役割を果たしているのだろうか。また、そのニュースバリューは今日的にどのような意味を持つのであろうか。本報告では、こんにち最大の問題である「質の低下」現象について、高級紙、いわゆるクオリティペーパーを対象にして分析を行い、それらの新聞が実践するニュースバリューとは何かについて明らかにする。また、分析で明らかになったクオリティペーパーの実態について、変化しつつある新聞を取り巻く環境のなかで検討し、新聞の今日的な意味合いについて考察する。

【研究の方法】 本報告は 2005 年 7 月 1 日～7 月 31 日までの 1 か月間、ヨーロッパのクオリティペーパーのテロ関連報道を分析し、質の高い新聞が実践するニュースバリューとは何かについて考察する。

具体的な分析方法としては、*The Guardian* (英)、*Le Monde* (仏)、*Süddeutsche Zeitung* (独)、*Neue Zürcher Zeitung* (スイス)、*Corriere della Sera* (伊)、*El Pais* (スペイン) の6紙を対象とし、ヴァン・ダイク (Teun A. van Dijk) らによって提唱されている「批判的言説分析」(Critical discourse analysis) とアラン・ベル (Allan Bell) の「言説構造モデル」(Model discourse structure for news texts) を応用し、言説分析を行う。分析対象とする6紙の記事量とニュースソース、ニュースバリュー、論評・社説を分析し、何をどのように報道したかを検証する。

【得られた知見】 第一に、事実の正確性が欠けていることが明らかになった。ロンドンでの爆発後、分析対象となる各新聞は特集面を組んで、「テロ」という表現を事件の発生後から使っていた。さらに、ロンドン同時多発テロが発生した翌日、各新聞別の被害規模や爆発場所が異なって報じられていた。

第二に、ロンドン同時多発テロ関連記事は他のテロ関連記事と比べて記事量が圧倒的に多かった。エジプトのテロなどと比較してみると、テロの頻度や死者・負傷者数とニュース作りは必ずしも一致しないことがわかる。

第三に、一番信頼され、引用されるニュースソースは他の新聞であった。また大衆紙の記事や写真の引用もしばしば見られる。

第四に、ロンドンの同時多発テロ記事では、争点化されたブラジル人青年誤射殺事件の報道が目された。本事例では、青年を間違えて射殺したことは事実と伝えられたが、その後は誤射事件を收拾し、イギリス軍の軍備増強や派兵案の可否に対し、肯定的な評価を下した。積極的であれ消極的であれ、メディアが英国政府の強硬な姿勢を支持していたことがうかがえる。

このような傾向は何もイギリスの *The Guardian* のみでなく、他国のクオリティペーパーにも見られた。ロンドン同時多発テロに対する第三者としての観点よりも英国の立場に同調していたと言える。英国以外の各国のクオリティペーパーは速報に重点を置き、事件に対する巨視的な視点からの見方を提示していなかった。

第五に、アルカイダとの関連付けである。9.11 事件以降、アルカイダの直接関与はさておき、背景としての関心は大きい。アルカイダとの関連性は9.11 やスペインの3.11 と関連付けられて強調されている。いずれも政治的に利用され、アルカイダとのテロ戦争の永続化を既成事実化しているようにも見える。分析期間中の記事でもアルカイダはたびたび取り上げられ、様々な対応とも結びついて論じられていた。核となるテロ勢力に対する根拠の薄弱な判断が見られる。

上述したように、高い質を追求してきたクオリティペーパーが、真の意味で事実を追及しているとは言いがたい分析結果である。

電子メディアの挑戦を受け、読者と広告が紙からインターネットに移るなかで、世界の新聞社は苦境に立っている。IT 革命の恩恵によって圧倒的に多くなった情報流通量ではあるが、それら情報の質は透明さ、信憑性などの面でむしろ劣化しているのではなかろうか。今直面している新聞の最大の課題は、急速に進行する情報化の中で新聞がこれまでの「情報の絶対優位性」を失いつつあることである。

本研究はいわゆるクォリティペーパーの記事にも質の低下がみられることを検証した。研究結果は新聞の未来を憂慮させるものである。今後新聞がその地位を維持するためには、新聞の産業面とともに、記事の質そのものに対する追求も重要である。